

ナブッコ

2013.5/19 ~ 6/4

新制作
New Production

Nabucco

オペラパレス | 6回公演 | 全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初演：1842年3月9日 ミラノ・スカラ座

作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ Giuseppe Verdi (1813-1901)

台本：テミストクレ・ソレラ Temistocle Solera

若きヴェルディの出世作。古代バビロニア王ナブッコの壮大な歴史ドラマ。

演目選定にあたって

『ナブッコ』は1998年新国立劇場の第1シーズンに上演され、2001年ヴェルディ没100周年に再演されたディアツ演出のプロダクション以来12年ぶりの新制作となります。26曲ものオペラを作曲したイタリア・オペラの巨匠ヴェルディが、3作目にして大成功を収め彼の出世作ともなったこの作品を、生誕200周年にちなんで上演します。第2のイタリア国歌と呼ばれる合唱曲〈ゆけ、わが思いよ、金色の翼に乗って〉は数あるオペラの中でも最も有名で美しい合唱曲です。国内外のソリストたちによる情熱的な歌唱や演技はもちろんのこと、新国立劇場が誇る合唱団の歌声でお聴きいただければ、必ずや満足していただけるものと確信しています。オペラ指揮者として、待望の新国立劇場初登場となるカリニャーニは、ウィーン・フィルとの共演を聴いた尾高芸術監督がその圧倒的な素晴らしさに舌を巻いたほどの実力者です。日本におけるカリニャーニは、オーケストラへの客演で既に多くのファンを獲得しているため、オーケストラ・ファンに対してオペラ公演の扉を開く機会となればと考えています。新制作の演出は、イギリス人演出家ヴィックです。96年フィレンツェ歌劇場『ランメルモールのルチア』や2003年スカラ座『オテロ』など来日公演をはじめ、世界の一流歌劇場や音楽祭で意欲的な作品が話題となるヴィックがどのような舞台を作り上げるか、期待が高まります。

作品解説

『ナブッコ』は26曲ものオペラを作曲した27歳の若きヴェルディの出世作で、この時期のヴェルディを理解するにあたり欠かすことのできない作品です。前作『一日だけの王様』(1840年初演)が失敗に終わり失意のどん底にあった彼は、この時期、最初の妻と娘を亡くしており、父娘の関係が、最愛の娘を亡くす危機に瀕したナブッコの父としての感情に大きく同調していたと言われます。物語では、全く異なる性格を持つ二人の姉妹の対立、その父親であるバビロニアの王ナブッコの娘への愛情、闘争、裏切り、復讐といったドラマが繰り返されます。聖書と「バビロンの幽囚」の史実を題材にとったこの作品は、全曲に若々しい情熱がみなぎり、第1幕冒頭から合唱の力をいかに発揮させていて、その中のひとつ合唱曲〈ゆけ、わが思いよ、金色の翼に乗って〉は、単独でも演奏される有名な合唱曲のひとつです。当時(1842年初演)オーストリアの支配下にあったイタリアでは民族統一運動(リソルジメント)の嵐が吹き荒れていました。そうした中でイタリア人が統一の祈願を、今日でも第2のイタリア国歌と呼ばれる合唱曲〈ゆけ、わが思いよ、金色の翼に乗って〉に込めたのです。初演当時の新聞評が「壮大で特に合唱の効果がすばらしい」とこぞって賞賛したほど合唱が聴きどころとなっています。ヴェルディの葬儀の際30万人を越す市民が、埋葬の地に向かう霊柩車の後をこの合唱曲をトスカニーニの指揮で歌いながら静かに行進しました。

あらすじ

紀元前6世紀、バビロニア王ナブッコ（ネブカドネザルⅡ世）には、アビガイッレとフェネーナの二人の娘がいた。アビガイッレはナブッコが奴隷に産ませた子で、実の娘フェネーナは敵対するエルサレムの王国の人質になっている。エルサレムではバビロニアの侵攻を目前に、ヘブライ人が騒然となっていた。そこへ、大祭司ザッカーリアがフェネーナの手を引き出てくる。敵の王の娘が手中にある上は心配はいらないと民衆をなだめる。しかし、エルサレム王の甥イズマエーレはフェネーナを愛していた。やがて、アビガイッレが兵士を従えて神殿に突入してくる。イズマエーレに想いを寄せていたアビガイッレは自分を愛するのなら助けようと言うが、イズマエーレに拒否される。そこへナブッコが登場し、神を侮辱する。怒ったザッカーリアはフェネーナに短剣を突きつけるが、イズマエーレに剣を奪われる。ナブッコは神殿に火を放ち、ヘブライ人たちを捕虜としてバビロンに連行する。戦勝におごったナブッコは自らを王ではなく神だと宣言したため、天罰が下り精神錯乱の状態となる。一方、自分が奴隷の子であることを知ったアビガイッレは、イズマエーレとフェネーナが愛し合っていることに憎悪の念を燃やし、乱心したナブッコを欺いて、イズマエーレのために改宗したフェネーナとヘブライ人の処刑に署名させる。さらに自分の生まれをあばく古文書を引き裂いて証拠を隠滅。そして、王を監禁し自分が王の座に就こうと企てる。ユーフラテス川の岸辺で囚われのヘブライ人たちは祖国へ帰れる日を神に祈りながら歌う（合唱曲〈ゆけ、わが思いよ、金色の翼に乗って〉）。まさにフェネーナたちが処刑される寸前に正気に戻ったナブッコは、エホバの許しを祈りフェネーナを救出。偶像を破壊しヘブライ人の解放を命じる。

G. ヴェルディ
ナブッコ

Nabucco / Giuseppe Verdi
全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	バオロ・カリニャーニ
Conductor	Paolo Carignani
演出……………	グラハム・ヴィック
Production	Graham Vick
美術・衣裳……………	ポール・ブラウン
Scenery and Costume Design	Paul Brown
照明……………	ヴォルフガング・ゲッベル
Lighting Design	Wolfgang Göbbel
ナブッコ……………	ルチオ・ガッロ
Nabucco	Lucio Gallo
アビガイッレ……………	マリアンネ・コルネッティ
Abigaille	Marianne Cornetti
ザッカーリア……………	コンスタンティン・ゴルニー
Zaccaria	Konstantin Gorny
イズマエーレ……………	樋口達哉
Ismaele	Higuchi Tatsuya
フェネーナ……………	谷口睦美
Fenena	Taniguchi Mutsumi
アンナ……………	安藤赴美子
Anna	Ando Fumiko
アブダッロ……………	内山信吾
Abdallo	Uchiyama Shingo
ベルの祭司長……………	妻屋秀和
Gran Sacerdote di Belo	Tsumaya Hidekazu
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2013年5月19日(日) 2:00 29日(水) 2:00
 22日(水) 6:30 6月1日(土) 2:00
 25日(土) 2:00 4日(火) 6:30
 オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 26,250円・A : 21,000円・B : 14,700円・C : 8,400円・D : 5,250円

【前売開始】2013年1月19日(土)

ナブッコ

Nabucco / Giuseppe Verdi

指揮：パオロ・カリニャーニ

Conductor : Paolo Carignani

ミラノ生まれ。ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院で作曲、オルガン、ピアノを学んだ後、A. ガリエラにオーケストラ指揮を師事。これまでにイタリアの主要歌劇場のほか、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、バルセロナのリセウ劇場、ネザーランド・オペラ、グライントボーン音楽祭、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなど各地でオペラを指揮。またオーケストラも数多く振っている。1999年から2008年までフランクフルト・オペラの音楽総監督およびフランクフルト・ミュージアム・オーケストラの音楽監督。今後の予定としては、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリッヒ歌劇場、リセウ歌劇場、フィレンツェ五月音楽祭のほか、12年7月読売日本交響楽団などを振る予定。新国立劇場には、11年5月『コジ・ファン・トゥッテ』で急遽指揮降板となったため、待望の初登場となる。



ナブッコ：ルチオ・ガッロ

Nabucco : Lucio Gallo

イタリア南部・ターラント生まれ。トリノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院でE. パッターリアに師事。これまでにウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ザルツブルク音楽祭、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールとレポレッコ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『フィガロの結婚』フィガロとアルマヴィーヴァ伯爵、『マクベス』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『さまよえるオランダ人』タイトルロール、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョ、『フィデリオ』ドン・ビツァロ、『パルジファル』クリングゾール、『ローエングリン』テルラムント、『ヴォツェック』タイトルロールなどレパートリーは幅広い。今後の予定としては、2012年3月シャンゼリゼ劇場で『パルジファル』、4月にウィーン国立歌劇場で『カヴァレリア・ルスティカーナ』『道化師』、5月ルクセンブルクと7月英国ロイヤルオペラで『オテロ』などがある。新国立劇場には『西部の娘』ジャック・ランズ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『椿姫』ジェルモンに続き5回目の登場。



演出：グラハム・ヴィック

Production : Graham Vick

イギリス・リヴァプール生まれ。バーミンガム・オペラ・カンパニーの創立者で芸術監督。R. ムーティ、J. レヴァイン、B. ハイティンク、V. ゲルギエフ、小澤征爾、Z. メータといった著名な指揮者と世界各地の一流歌劇場で仕事をしている気鋭のイギリス人演出家。音楽を大切にしながら現代的なセンスで、切れ味のよい人間ドラマを描き出す演出力が高く評価されている。1984年から87年までスコティッシュ・オペラ、94年から2000年までグライントボーン音楽祭で『エウゲニ・オネーギン』『マノン・レスコー』『コジ・ファン・トゥッテ』『ドン・ジョヴァンニ』など数々のオペラを演出。今後の予定には、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、マリンスキー劇場などがあり、ワーグナー誕生200周年の13年にはバレルモ・マッシモ歌劇場初の『ニーベルングの指環』のチクルス上演が予定されている。日本では、1995年サイトウ・キネンで『放蕩者のなりゆき』、96年にフィレンツェ歌劇場日本公演『ランメルモールのルチア』（メータ指揮）、2002年ミラノ・スカラ座日本公演『オテロ』『マクベス』（ムーティ指揮）の演出を手がけている。大英帝国勲章（CBE）を授与されている。新国立劇場初登場。

ナブッコ

Nabucco / Giuseppe Verdi

アビガイル: マリアンネ・コルネッティ

Abigail : Marianne Cornetti

アメリカ・ペンシルバニア生まれ。メトロポリタン歌劇場、ピッツバーグ・オペラなどで経験を積んだ後、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナでミラノ・スカラ座、ヴェローナ野外劇場、ローマ歌劇場の舞台に立ち、良く伸びる豊かな声量と情感溢れる熱唱で一躍脚光を浴び、国際的キャリアのスタートを切る。以来、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、モネ劇場、英国ロイヤルオペラ、フィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場、ブレゲンツ音楽祭、サヴォンリナ音楽祭などに出演。『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『アイダ』アムネリス、『仮面舞踏会』ウルリカ、『ドン・カルロ』エボリ、『マクベス』マクベス夫人、そして、幅広い声域で激しい感情の起伏を表現しなければならない、難役『ナブッコ』アビガイルなどヴェルディ作品では特に定評がある世界的にトップレベルのメゾ・ソプラノ。他にも『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、『ジヨコンダ』ラウラ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ローエングリン』オルトルートなど幅広いレパートリーを持つ。日本では、2001年ダニエル・オーレン指揮の『ドン・カルロ』エボリ、06年ポーロニャ歌劇場日本公演『イル・トロヴァトーレ』アズチーナを歌っている。新国立劇場には2012/2013シーズンには『アイダ』アムネリスでも登場予定。新国立劇場初登場。



ザッカーリア: コンスタンティン・ゴルニー

Zaccaria : Konstantin Gorny

ロシア中部・タンボフ生まれ。イタリア、フランス、スラヴ系のレパートリーを得意とする。2004年に、「オペルンヴェルト」誌の“シンガー・オブ・ザ・イヤー”に選ばれた。最近ではフェニーチェ歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、バーデン州立歌劇場カールスルーエの『リゴレット』スバラフチーレ、『魔笛』ザラストロ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場『ナブッコ』ザッカーリアなどに出演。その他『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『シモン・ボッカネグラ』ヤコーボ・フィエスコ、『エルナーニ』大公ドン・シルヴァ、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公などをレパートリーとする。今後は、12年3月にフィレンツェで『アンナ・ボレーナ』ロシュフォル卿、12年4月にカールスルーエで『ドン・ジョヴァンニ』、13年10月パリで『ヴェスタの巫女』、12月フィレンツェで『アイダ』への出演が予定されている。新国立劇場初登場。

イズマエーレ: 樋口達哉

Ismaele : Higuchi Tatsuya

福島県出身。武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。エンリーコ・カルソー国際音楽コンクール最高位。1998年ハンガリー国立歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォでヨーロッパデビュー。99年ミラノ・スカラ座に於いてR・ムーティ指揮『運命の力』に出演。東京二期会公演『ダフネ』ロイキッポス、『仮面舞踏会』リッカルド、『エフゲニ・オネーギン』(P.コンヴィチエニー演出) レンスキー、『ファウストの劫罰』ファウスト、『ラ・トラヴィアータ』アルフレード、日生劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』テバルドなどに出演を重ね常に素晴らしい存在感を示しドラマを牽引している。新国立劇場では『道化師』ベッペ、『ファルスタッフ』フェント、『椿姫』ガストン子爵、『黒船 一夜明け』領事、『修禅寺物語』春彦、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』カヴァラドッシ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドウ、『蝶々夫人』ピンカートン、小劇場オペラ『外套』ルイーダ、『ザザ』ミーリオなど数多く出演。2012/2013シーズンでは『アイダ』伝令、平成24年度高校生のためのオペラ鑑賞教室『ラ・ボエーム』ロドルフォにも出演予定。二期会会員。



ナブッコ

Nabucco / Giuseppe Verdi

フェネーナ: 谷口睦美

Fenena : Taniguchi Mutsumi

高知県出身。東京藝術大学卒業。同大学院独唱科修了。二期会マスタークラス修了。二期会プロフェッショナルコース修了。第2回大阪国際コンクール声楽部門入選。第11回日本クラシック音楽コンクール東京地区本選大学の部奨励賞受賞。第19回出光音楽賞受賞。これまでに『カルメン』タイトルロール、『ノルマ』アダルジーザ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』マルチェリーナなどに出演。2006年東京二期会オペラデビューとなった『皇帝ティートの慈悲』（ペーター・コンヴィチュニー演出）セストで、彗星のごとく現れた逸材に数多く賞賛の声が寄せられた。07年産経新聞社主催「オペラの華」コンサート・シリーズ《カルメン・ハイライト》、08年東京二期会『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、09年三河市民オペラ『カルメン』タイトルロール、同年東京二期会『カプリッチョ』女優クレロンに出演。コンサートの分野でも活躍している。新国立劇場では、07年のはじめてのオペラ『カルメン』タイトルロールに出演。二期会会員。



ベルの祭司長: 妻屋秀和

Gran Sacerdote di Belo : Tsumaya Hidekazu

松江市出身。東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994年から2001年ラプツィヒ歌劇場、02年より11年までワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。主なレパートリーには『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『エフゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などがある。新国立劇場には『アイーダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演している。2011/2012シーズンは『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長で出演。2012/2013シーズンは『セビリアの理髪師』『ドン・バジリオ』『アイーダ』ランフィスでも出演予定。藤原歌劇団団員。